

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～ ICT 化、多様化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

- 1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
- 2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
- 3. 豊かな心や社会人基礎力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化【授業力】

- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する。
 - ア グローバル社会を生き抜く力の育成のため、探究的な学びや国際教育を充実させ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実践を積み、授業力向上を進める。
 - イ 「観点別学習」を進めるとともに計画・実践・評価・改善という一連の活動を繰り返すことで指導と評価の一体化をめざす。
 - ウ 生徒が学習において「思考力・判断力・表現力」を自在に働かせることができるようにするために、教師が専門性を発揮する。
 - ※ 大学入学共通テストに向けた対応、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る。
 - ※ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数が令和9年度には250名以上となることを維持する。(R4:285名,R5:290名,R6:360名)
 - エ ICT等を活用して学習活動等を充実する。
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を令和9年度80%台となることを目標とする。(R4:59.8%,R5:69.8%,R6:72.7%)
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答を令和9年度も80%台を維持することを目標とする。(R4:84.9%,R5:83.9%,R6:80.4%)
 - ※ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答を令和9年度も80%台を維持することを目標とする。(R4:87.4%,R5:86.6%,R6:88.3%)
 - ※ 英語検定準2級相当以上の合格者合計が令和9年度180名となることを目標とする。(R4:88名,R5:81名,R6:121名)
 - オ 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させる。とりわけ、要支援生徒に対しては、スクールカウンセラーと協働した教育相談の充実、遠隔授業を活用した不登校生徒の学習保障、日本語指導が必要な生徒に対する教科指導の工夫に努める。
- (2) 基本的な知識及び技能を確実に習得させる。また、これらを活用してSDGsの諸問題を始めとした様々な課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む。

2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな感性や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める。
 - ア 総合的な探究の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る。
 - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める。
- (2) 豊かな感性をもち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める。
 - ア 普通科、国際文化科の両科とも国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める。
 - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む。
 - ウ 地域住民や小・中学校、企業、大学、行政等の外部機関の専門的な知見やフィールド等を活かした連携を通じてさらなる教育内容の充実に努める。
 - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできるしなやかな心と規範意識を育む。
 - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。
 - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う。
 - ※ 身だしなみ、不注意による遅刻がないように指導を継続する。遅刻について、令和9年度2000件以下に減ずることを目標とする。(R4:2942件,R5:2848件,R6:2583件)
 - ※ 部活動加入率（3学年平均）が令和9年度には70%台になることを目標とする。(R4:62.8%,R5:64.2%,R6:63.1%)
- (4) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする。
- (5) 複雑化・多様化する健康課題への意識を高め、健康の保持・増進にかかる取組みの推進及び健康教育の充実を図る。

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、学校全体で「旭で伸ばす」の目標を持ち、邁進できる組織を構築する。
 - ア 「NEXT10」（旧将来構想委員会）を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める。
 - イ グループウェア等を活用し、校務運営の効率化を進める。
 - ウ 運営会議、職員会議などの充実を図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う。
 - エ 個人情報の適正な管理に努める。
- (2) 校務の効率化を図るとともに、働き方改革を進め、生徒と向き合う時間を確保する。
 - ア ICTを活用した取組みを推進し教職員が機器を効率よく使用できるよう研修を行う。生徒の学びの深化を図ると同時に、校務の効率化に繋げる。さらに、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす。
 - イ 学校休業日や部活動休養日の設定などに取組み、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める。
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。
 - ア 学校ホームページや学校紹介パンフレット等を充実させて効果的な情報発信をすることにより、広く学校を理解してもらえるように努める。
 - イ 校内美化に努めるとともに、令和9年度に向けて校内設備の安全と充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
※数字は学校教育自己診断の回答のうち肯定的評価の割合(%)を示す。 （「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合） 【Ⅰ】保護者からの回答に関して（R5→R6→R7） （1）学校生活全般に関する設問について、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 1. 子どもは学校行くのを楽しみにしている（83%→80%→82%） 3. 生活指導の方針に共感（67%→65%→66%） 4. 将来の進路や職業について適切な指導（69%→72%→73%） 5. 子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる（58%→59%→60%） 13. 学校はいじめについて子どもが困っていれば真剣に対応（27%→28%→28%） ・すべての項目について、昨年度比で上昇している。定期・臨時の連絡メールの発信等により、学校の取組みを理解いただいている。 ・「学校はいじめについて…真剣に対応」について「わからない」との回答が多いのは、いじめ状況そのものが少なく、判断できないことによると考えられる。毎年3回、全生徒へのいじめ等（安心安全生活）アンケートなどを引き続き丁寧に実施し、いじめを見逃さない取組みを続ける。 （2）学校行事（特別活動）に関する設問について「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 6. 学校行事は子どもにとり有意義（95%→94%→96%） 7. 人権尊重の意識や社会ルールを育成（70%→72%→71%） ・学校行事に関しては、本年度も高い水準を維持している。体育祭、文化祭とも達成感のある行事となっていると思われる。また、修学旅行は昨年度より行先を台湾として実施している。 （3）学習活動および学習環境についての「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 2. 子どもは授業がわかりやすく興味深いと言っている（50%→50%→52%） ※生徒の「授業はわかりやすい」の回答との比較（70%→73%→77%） 9. 学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる（45%→43%→46%） ・「授業がわかりやすく興味深い」と家庭で話している生徒は、毎年少しずつ増加しているが、同じ質問の生徒回答では20%以上の開きが見られ、保護者の学校への期待の高さがうかがえる。 ・施設設備について、老朽化が進み、改修要望は多い。不具合が生じたことも少なくないが、即時に対応することで、満足度はやや持ち直した。 【Ⅱ】生徒からの回答に関して（R5→R6→R7） （1）学校生活全般に関する設問について「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 1. 学校へ行くのが楽しい（85%→83%→86%） 20. 学校生活の満足度（82%→83%→86%） 1年生：79%→78%→88% 2年生：81%→83%→82% 3年生：85%→89%→89% 21. 後輩に旭高校を勧めるか（69%→73%→79%） 1年生：73%→72%→87% 2年生：64%→75%→68% 3年生：71%→71%→83% ・本校での高校生活を楽しいと感じている生徒が80%以上いることを維持している。各学年ともに年次の進行とともに満足度が高まっている。充実した学校生活を送っているものと評価できる。 ・現1年生は「満足度」「旭高を後輩に勧めるか」とともに非常に高い。学年が進行してもこの水準を維持できるよう努めていきたい。 （2）学習について、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 2. 先生は生徒の意見を聞いてくれる（81%→84%→86%） 3. 授業はわかりやすい（70%→73%→77%） 4. 授業で分からないところについて先生に質問しやすい（76%→77%→75%） ・「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定的回答は約86%となった。 ・「授業で分からないところ…質問しやすい」の肯定的回答も上昇傾向である。更なる上昇をめざしたい。 ・「授業はわかりやすい」の肯定的回答が増加している。今後も増加させたい。	■令和7年度 第1回 学校運営協議会 7月4日（金）15時30分～17時00分 於 本校校長室 1. 学校経営目標と現状報告 [校長] 令和7年度学校経営計画及び学校評価から重点目標の説明・確認 ・確かな学力 探究についての説明(来年度から個人探究へ移行)、国際教育関係(短期・長期留学生、夏期語学研修、台湾修学旅行)、ICT(体育等の実技習得で活用、英語科ではBase-in-Osakaなどの学習支援ツールの活用)、遠隔授業の整備、日本語指導が必要な生徒の増加及び体制整備 ・豊かな感性 自主自律(生徒会選挙に複数立候補や体育祭)、安全に関する教育(自然災害への意識向上、避難訓練)、健康教育 ・学校の特徴 校務効率化(掲示板の活用、会議ペーパーレス、レジュメの工夫)、NEXT10(ずれ勤活用などの働き方改革)、広報(SNS活用) 2. 各分掌等の取組み 分掌長及び学年主任から取組みをまとめた資料を提示 3. 協議 ＜委員＞「日本語指導が必要な生徒」に対して具体的にどのような取組みをしているのか。 [事務局] すべての教科ではないが抽出で授業を実施し、原学級への合流をめざす。考査等においては、ルビうち等の対応。保護者懇談時には通訳を手配することを行っている。 ＜委員＞旭陽中学では、日本語指導の拠点校となっている。さまざまなルーツの生徒がいる。 ＜委員＞進学するにあたり、ICT化のリテラシーを挙げておく必要があると感じる。 ＜委員＞アプリの選択肢が多いことはいいことだと思う。 ＜委員＞金融教育(投資等)を高校で行っているのか。 [事務局] 家庭科、社会科等の教科の中で学ぶ機会がある。 [校長] 情報リテラシーは数年前より上がっている。金融教育はこれからより必要になる。 ＜委員＞中学でもICT活用進む(使い慣れた生徒が入学しつつあり、滑らかに)、生成AIの活用も。日本語指導等抱える課題が似ている。JSL活用。 ＜委員＞外国籍生徒の増加に驚き。公式SNS賛成、広報にプラス。 ＜委員＞公式SNSはどのような運用を考えているのか。 [事務局] 日々の学校の様子を発信予定 [校長] 令和10年度入試改革について、ご意見をいただきたい。 ・現中1生から対象・特色枠の導入・第2志望の導入・英語の読み替え率の変更など。 ＜委員＞中学校も具体的な内容を把握していない。 ・特色枠を打ち出すためにアドミッションポリシーをより具体的な生徒像をイメージさせるような内容にするとよいのではないか。 ・大学ではA0入試枠をイメージするが、難しい。働き方改革に逆行すると思う。入口だけのことなく、カリキュラムもしっかり検討する必要があると思う。 ■令和7年度 第2回 学校運営協議会 11月28日（金）15時30分～16時50分 於 本校会議室 1. 各分掌の取組み [分掌長、学年主任、首席] 各資料に基づいて進捗状況を説明。 2. 協議 ◇授業参観の感想 ・例年に比べ、生徒の「切り替える力」が向上している。 保健 クロームブックの活用 生成 AI の普及による著作権指導の重要性。 数学 生徒の活動時間と教員の講義を聴く時間の切り替えができている。 英語 教員の英語使用頻度が高い。 国語 古典文法(助動詞)において、大学受験で問われる部分を1年生から徹底して指導しており、普段の授業の積み重ねが見えた。 ・クラス等の掲示物が充実している。英語テストのスコアランキング、進路指導の充実 ◇各分掌等の取組みについて ＜委員＞今年度の受験傾向について [事務局] 年内に進路を決めたい生徒が増加している。その一方で一般入試を受験し、最後まで勉強に励む生徒も増加傾向にある。(二極化) ＜委員＞部活動加入率について [事務局] 70%で停滞しているが、本学に問わず、高校全体で部活離れが見られる。 ＜委員＞保健部の身に着けたい力について [事務局] 保健便りの発信、学年との連携、保健委員会の活発化を通して実現している ＜委員＞旭高校のグラデーションポリシーと関連しているのか？

府立旭高等学校

(3)キャリア教育・人権教育について、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」の割合 10. 将来の進路や生き方について考える機会がある (90%→92%→95%) 14. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある (88%→92%→94%) ・進路について考える機会について、年々肯定的回答が増加している。進路行事を多彩に企画し、生徒が進路を考えるよい契機にできていると言える。 ・命の大切さ、個人の違いを理解し尊重すること、よき関係を保つために社会のルールについて学ぶことなど、教育活動全般を通じて取り組んでいる。 (4)家庭学習時間について 22. 平日の勉強時間 0～30分 (54%→58%→55%) 1時間 (24%→21%→22%) 2時間以上 (22%→21%→23%) 23. 休日の勉強時間 0～30分 (51%→52%→52%) 1時間 (20%→20%→18%) 2時間以上 (28%→29%→30%) ・平日の勉強時間が30分以下の生徒が昨年より改善した。また、平日、休日2時間以上学習する生徒の割合が2%弱増加した。 ・11月現在の通塾率は28% (1年25%, 2年24%, 3年36%) 昨年度は27%であった。 【Ⅲ】その他全般に関して (R5→R6→R7) 11. 学校からの連絡を子どもがもらわず伝えている 保護者 (61%→56%→59%) 生徒 (78%→82%→78%) 10. 学校が家庭連絡を積極的に行っている 保護者 (68%→65%→64%) 17. 保護者が旭高校のどこに最も注目しているか (いずれか1つ) 教育方針 (15%→15%→14%) 生徒会活動や行事 (19%→16%→16%) 進路実現 (45%→40%→39%) 国際交流 (16%→21%→21%) 部活動 (5%→9%→10%) ・学校からの家庭連絡については、今後ともメールによる情報配信やHPの充実など、情報発信に努めていきたい。 ・進路実現が最も高いが、国際交流や部活動についての関心度が上昇している。		[事務局] 旭高校の掲げているポリシーの具体的な取組みの一部として実施している。 <委員>10万円給付の対象校について [事務局] 海外で姉妹校を提携している学校が対象。 <委員>遠隔授業について [事務局] 校長決裁のもと、対象生徒を決定し、リアルタイムで実施する。ただし定期考査を受験することが条件である。 <委員>ASAHI CARDとは？ [事務局] 大学入試の対策として、探究活動や行事等の感想や学んだことを振り返るためのシート <委員>出前授業、高校訪問について [事務局] 3～4校(タイプの異なる)が中学校に出向き、学校説明等を行う授業のこと。また高校訪問とは、中学生が高校を訪れ、学校説明等を聞くイベントのこと。 <委員>保健部の取組みについて [事務局] 取組みを通して、生徒の自尊感情が高まり、活躍の場が広がった。 <委員>自習室について [事務局] 学習環境の整備、運営計画についてNEXT10委員会中心に検討中。(開放時間やカギ閉め等)働き方改革の面も考慮し一部教員に負担が偏らないようにする。正門前プレハブ校舎の利用の方向で準備中。自習室の運用資金は卒業生からのゆめ基金。食堂リニューアルによる多目的化の推進も計画。 <委員>出前授業、オープンスクールについて [事務局] 高校進学に対するイメージがしやすくなる。応募数が多いゆえに漏れる場合があり、オープンスクールの回数増加の検討。 <委員>自転車通学について、通学指導の現状は？ [事務局] 生徒の交通ルールの認識不足→保健の授業での「交通ルール」単元の早期化 ■令和7年度 第3回 学校運営協議会 1月29日(木)15時30分～16時50分 於 本校校長室 1. 各分掌の取組み [校長] 「R7年度学校経営計画」評価案、「学校教育自己診断」実施結果の説明。「R8年度学校経営計画」計画案についての説明及び承認について。 ：R7年度との比較、中期的目標をコンパクトにわかりやすく変更した。南海トラフ・減災教育、公式SNS、自習室の設置、safety bicycle等を追記した。 2. 協議 <委員>いじめについて、ネットでの炎上など社会的に話題になる事件が起こった際にどのような対応をしたか。 <校長> いじめアンケート(第3回)の実施時期と重なったため、そちらを活用。上がってきた事象に対して学年を中心に対応、大きな事象につながるものはなかった。 <委員>いじめは、中学校としても危機感。全校集会で改めて呼びかけ。「いじり」はいじめ、その線引き指導が難しい。学校のいじめ対応に対して生徒から肯定的回答があるのは良い。 <校長>いじめの認知件数を上げることはアンテナを張っている証とも言える。教員による体罰や暴言について、R8年度に教員研修を実施予定。 <委員>情報リテラシー教育について、子どものスマホ保有率の増加、低年齢化、小中高でそれぞれの発達段階に応じた教育の重要性。 <校長>大阪市で起こった事案を受けての危機感。ネット上で起こっているいじめ事象を学校で認知することの難しさ。 <委員>「将来の進路や生き方について考える機会がある」の数値が年々アップしていてよい。教員志望の生徒はいるか。 <校長>本校卒業生の教員も多くいる。調査はしていないが、潜在的には教員をめざしている生徒はいるのでは。 <委員>小中が近いので協力できるとよい。小学校の授業見学など。 <校長>高校段階で一度体験してみるのもよい。小・中学生の高校訪問も増えている。 <委員>校門で毎朝挨拶をしている教員にあこがれている小学生もいる。 <委員>自習室の進捗状況は？ <首席> R8年度早期に開設予定。 <校長>生徒保健委員会が文化祭等で活躍し、校外で発表、他校にも旭高校の活動が波及している。	
--	--	--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1	(1)言語能力,情報活用能力,問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な	(1)ア①グローバル社会を生き抜く力の育成のため、探究的な学びや国際教育を充実させ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実践を積み、授業力向上を進める。また、事前・事後指導を計画的効果的に組立て、充実した語学研修及び海外修学旅行を実施する。語学研修では海外姉妹校生	(1)ア①語学研修及び海外修学旅行実施後のアンケートの肯定的回答85%以上をめざす。	(1)ア①[英100%,豪94%,修79%](◎)・夏休中に、英国(大学寮)27名11日間、豪州(姉妹校訪問・ホームステイ)20名17日間で実施。・台湾修学旅行は10月に4日間で実施。全日程が雨天となったこと、

府立旭高等学校

確かな学力の定着と学びの深化	視点に基づき育成する	徒との交流と他国研修生との共同的な学びを深め、海外修学旅行では現地校との交流活動を積極的に行う。		多くの生徒がインフルエンザに罹患したことなどが影響したと考えられる。
		②「主体的な学び」 本校の「キャリア・パスポート」である「Asahi Card」を活用する。学びのプロセスを生徒自身が記録し蓄積する（書き溜める）ことで変化や成長を自己評価し、キャリア形成と自己実現につなげる。 ③「対話的な学び」 実社会で働く人々が連携・協働して社会における課題を解決する話を聴講することから自らの考えを広めるとともに、生徒自らが考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。 ④「深い学び」 「総合的な探究の時間」の充実に向けて委員会を中心として全体化し、活動の在り方と指導の方向性を確立させる。また、大小の研究発表の機会を設定し、他者の「学び」から「気づき」を得て、次の「学び」へと発展せる。 イウ 学習活動の質の向上 ①指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、生徒の思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を研究する。 ②質の高い授業を提供することで生徒が自らのキャリア形成への意識を高め、さらに希望する進路実現につなげる。	②③④学校教育自己診断（生徒）「将来の進路や生き方について考える機会がある」についての肯定的評価85%以上を維持する。[92%] ②③④社会人講話や模擬授業を1、2年で3回以上実施する。[1年4回 2年6回] ②③④普通科及び国際文化科でそれぞれ課題に応じて探究活動を組立て、校内の課題研究発表会を企画・実施して、学科及び学年を超えて全体化する。 ②③④国際文化科2年次の課題研究校内発表会をし、最終授業でのアンケート「SDGs についての問題を考え議論することができた」についての肯定的評価 100%[100%] イウ ①相互授業見学 100%[82%] ①学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」についての肯定評価 70%以上を維持する。[73%] ①学校教育自己診断（教職員）「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」についての肯定的評価 85%以上を維持する。[89%] ②授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的評価80%以上を維持する。[84%] ②学力診断テスト、模擬試験等を学年毎3回以上実施。 [1年4回、2年4回、3年全員1回、希望者6回] ②進路に関する説明会及び講演会を合計4回以上実施。 [保護者向け全学年5月、2年2月 生徒向け1年9月、2年10月11月12月1月、3年4月5月大学別6回] ②大学見学会、大学による模擬授業合計3回程度実施。 [大学見学会1年10月、大学による模擬授業	②[95%]（◎） 2年生では修学旅行後に、外部講師を招聘しての講演会や大学等の模擬授業を実施、1年生で早期に、生徒・保護者対象の進路説明会を実施するなど、生徒の学習意欲と進路意識を向上させる取組みを進め、高い数値目標を維持した。 ②[1年5回 2年5回]（◎） 計画通り実施した。 ③普通科と国際文化科ともに探究委員会と学年、国際部が中心となって年間の探究活動計画を企画・立案、実施した。普通科発表会は地域の区民ホールで開催し、発表の場づくりを工夫するとともに、外部指導者を招聘して助言・講評をいただいた。（○） ③[95%]（○） イウ ①相互授業見学[84%]（○） ①[75%]（○） ICT 活用やペアワーク、グループワークを積極的に活用し、生徒の学習に対するモチベーションを向上させるなど工夫された授業が展開されている。<※> ①[94%]（◎） パフォーマンス課題の内容とルーブリックの取組み、横断的授業を意識した相互授業見学を進め、生徒の学習意欲の向上や定着のために、より効果的な方法を議論し、全体化できている。 ②[84%]（○） 上記<※> ②[1年4回、2年4回、3年全員1回、希望者5回]（○） 計画通り実施した。 ②[保護者向け全学年5月、2年2月 生徒向け1年9月、2年7月11月12月1月、3年4月5月大学別5回]（○） 計画以上に実施し、前年度の実績を維持した。 ②[大学見学会1年10月、大学による模擬授業2年7月、10月]（○） 計画通り実施した。

府立旭高等学校

		エ ICT 等を活用して学習活動等を充実する。 ①GIGA スクール構想を踏まえ、教員が必要に応じて HR 活動や授業で ICT を活用できるようにする。 ②授業、その他で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。 オ 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させる。 ①要支援生徒に対しては、スクールカウンセラーと協働した教育相談を充実させる。 ②遠隔授業を活用した不登校生徒への学習保障に取り組む。 ③日本語指導が必要な生徒に対する教科指導の工夫に努める。	2 年 7 月、10 月] ②補習・講習など各種講習を充実させ、令和 6 年度程度の学習の機会を設ける。 [1 年 91 回 2 年 62 回 3 年 150 回] ②授業アンケート「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的評価 80%以上を維持する。[88%] ②国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数 250 名以上を維持する。[360 名] エ ①グループウェアおよび ICT の活用について研修を 2 回程度行う[2 回] ②教員アンケート等で「前年度よりスキルが上がった」との回答 90%以上をめざす。 [90%] オ ①②③学校教育自己診断（生徒）「学校へ行くのが楽しい」についての肯定的評価 80%以上をめざす。 ①②③学校教育自己診断（生徒）「あなたの学校生活の満足度はどのくらい」についての肯定的評価 80%以上をめざす。	②[1 年 120 回 2 年 112 回 3 年 150 回]（○） 計画通り実施した。 ②[87%]（○） 授業方法を工夫し、生徒が能動的な学習することで、モチベーションが向上し、学習内容の定着につながっている。 ②[311 名]（○） 国公立大学 6 名 関関同立 80 名 産近甲龍 174 名 関西/京都外大 51 名 エ ①[2 回]（○） 計画通り実施した。 ②[90%]（○） 学校教育自己診断をはじめ様々なアンケートでもグループウェアを活用した。活用することが通常となり、スキルの獲得に定着した感がうかがえる。 オ ①楽しい[86%]（◎） 満足度[87%]（◎） ②細案を整備し運用を開始した。（○） ③日本語指導に特化した学校設定科目に加え、低学年を中心に国語、地歴・公民、理科で抽出授業を実施した。（○）
2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成	（3）学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む	（3） ア「自主自律（校訓）」の醸成 ①自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神を醸成する。	（3） ア ①学校教育自己診断（生徒）「学校は生活規律や学習指導基本的習慣の確立に力を入れている」についての肯定的評価 85%以上を維持する。[86%] ①メール配信、学校ブログ、式辞等を活用し、生徒・保護者に対して、前年度程度以上のメッセージを発信する。[152 回] ①集団活動（行事等）後に達成感や充実感を図るアンケートを実施する。肯定的評価 80%以上を維持する。[90%] ①学校教育自己診断（生徒）「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」についての肯定的評価 80%以上を維持する。[92%] ①学校教育自己診断（生徒）「人権について学ぶ機会がある」についての肯定的評価 80%以上を維持する。[93%]	（3） ア ①[89%]（◎） 学校生活及び日々の学習において、挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、小さな努力を積み重ねるよう、高校生としてのあるべき姿を求め中、指導に対する生徒の理解を維持した。 ①[192 回]（○） 学校ブログ、保護者・生徒対象のメール配信など、時宜を得た配信に努めている。 ①[99%]（◎） ①命の大切さ [94%]（○） ①人権について[97%]（○） 同和問題・人権問題をテーマとした教職員研修を実施するとともに、「総合的な探究の時間」などを活用し、SDG s を含む今日的な人権課題を生徒・教職員がともに学習

府立旭高等学校

自律・自己実現		イ 学校における生活指導は、学校全体で組織的かつ丁寧に行う。 ①生徒に身だしなみを正す意味や挨拶の大切さを考えさせた上で、丁寧に行う。	イ ①②③ 学校教育自己診断（教職員）「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」についての肯定的評価 80%以上を維持する。[83%]	する機会とした。情報モラルをはじめとする今日的な人権課題にも取り組んでいる。
	（４）安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする （５）複雑化・多様化する健康課題への意識を高め、健康の保持・増進にかかる取組みの推進及び健康教育の充実を図る	②携帯電話の扱いについて考えさせる機会を持つとともにSNSに関係するトラブルがないよう指導を行う。 ③不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し、礼儀など社会的常識を身につけることで、社会人としての規範意識や協調性を培う。 （４） ①自然災害への備えや事故防止の観点から、命を守るための安全確保や安全管理に努めるとともに、生徒・教職員の防災・防犯意識を高める。 （５） ①薬物乱用防止教育、性に関する指導、心肺蘇生実習など、健康の保持・増進にかかる取組みを推進する。	①②③学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」についての肯定的評価 70%以上をめざす。[65%] ②SNS に関するモラル指導、トラブルについての講習を１回以上行う。 ③遅刻数 2000 件以下をめざす[2583 件] 学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」についての肯定的評価 70%以上をめざす。[65%] （４） ①防犯・防災計画に基づいた避難訓練等を工夫し、実施する。 ①学校教育自己診断（生徒）「学校で、事件・地震や火災などが起きた場合、どう行動したらよいか知らされている」についての肯定的評価 90%以上をめざす。 （５） ①薬物乱用、心肺蘇生、性に関する講習・実習を工夫し、それぞれ１回以上実施する。 ①生徒保健委員会を中心として健康教育かかる取組みを進め、研究を深めて整理し、府立学校保健研究大会などの機会に成果発表を行う。	イ ①②③[79%]（△） 目標数値を下回ったが生徒支援委員会、保健部、生徒指導部、学年が連携し、要支援生徒についての情報共有と丁寧な見立てを行い、スクールカウンセラーと協働して支援方針を決定するなど、生徒と保護者に寄り添いながらその困り感の解消と不安のない学校生活の確保に向けて取り組んでいる。 ①②③[66%]（○） 昨年度数値とほぼ同じで、目標数値を上回らなかった。引き続き、入学の際や PTA 関係行事、長期休業前のメールや書面により丁寧な説明に努める。 ②計画通り実施した。（○） ③遅刻数 3137 件]（△） 自己診断結果[66%]（○） （４） ①計画通り実施した。（○） ①自己診断結果[93%]（○） 避難訓練では生徒に対して、事前予告せずに実施し、「災害はいつ発生するかわからない」ことも意識させている。 （５） ①計画通り実施した。（○） ①「保健」の授業および講習で実施。また、３年生には性に関する講習を実施した。（○）
3 学校の特色づくりと組織力の	（１）教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「旭で伸ばす」の目標を持ち邁進できる組織を構築する	（１） ア「普通科」と「国際文化科」の連携強化 ①NEXT10（旧将来構想委員会）を核として、「観点別評価」の改善、「総合的な探究の時間」の充実をめざす。 ②国際文化科の発展、深化を図る。	（１） ア ①観点別評価について、教科を超えて研修・研究を進める。 ①学校教育自己診断（教職員）「評価の在り方について話し合う機会がある」についての肯定的評価 90%以上をめざす。[83%] ②普通科、国際文化科ともに「SDGs についての問題を考え議論することができた」についての肯定的評価 90%以上を維持する。[普通科 94%、国際文化科 100%] ②国際文化科のウェブでの交流を含め国際交流を４回程度実施する。[９回]	（１） ア ①計画通りに実施した。（○） ①[88%]（◎） 目標数値には達していないものの昨年度数値を超えており、各教科における問題点や今後の課題についての議論と工夫が進められている。 ②普通科[96%]、国際文化科[95%]（○） ②[10 回]（○） （韓国３回、オーストラリア１回、フランス２回、その他授業等でのオ

